

平成25年度 成績概要書

研究課題コード：4104-426500（道受託研究）

1. 研究課題名と成果の要点

- 1) 研究成果名：平成25年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫
（予算課題名：病害虫発生予察調査）
- 2) キーワード：病害虫発生予察、注意すべき病害虫、新発生病害虫
- 3) 成果の要約：平成25年度に実施した病害虫発生予察調査から、多発傾向にあった病害虫として14病害虫を示した。また、平成26年度に特に注意すべき病害虫として5病害虫を示し注意を喚起した。さらに、平成25年度に新たに発生を認めた病害虫として25病害虫（病害12、虫害13）を示した。

2. 研究機関名

- 1) 担当機関・部・グループ・担当者名：中央農試・病虫部・予察診断G・研究主幹 清水基滋、中央農試・病虫部・クリーン病害虫G、上川農試・研究部・生産環境G、道南農試・研究部・生産環境G、十勝農試・研究部・生産環境G、北見農試・研究部・生産環境G、花・野菜技術センター・研究部・生産環境G
- 2) 共同研究機関（協力機関）：各農業試験場・研究部・地域技術G、北海道農政部技術普及課、北海道病害虫防除所
（北海道農業研究センター、全道農業改良普及センター）

3. 研究期間：平成25年度（2013年度）

4. 研究概要

1) 研究の背景

病害虫の発生はその年の発生状況や気象経過のほかに、前年の発生状況の影響を受けるため、効率的な病害虫防除を実施するためにはそれら踏まえた全道的な情報が求められる。また、道内で未確認の病害虫が突発的に発生するため、対応が求められる。

2) 研究の目的

全道での病害虫発生状況を新発生病害虫も含めて記録し、これをもとに次年度に注意すべき病害虫を示して注意を喚起する。

5. 研究内容

- 1) 農作物有害動植物の発生状況
 - ・ねらい 農作物有害動植物の発生状況を記録する
 - ・試験項目等 18作物・86病害虫の発生状況を調査
- 2) 突発および新発生病害虫の診断試験および調査
 - ・ねらい 道内で新たに発生した病害虫を同定し記録する
 - ・試験項目等 発生調査、再現試験、同定試験

6. 成果概要

- 1) 平成25年にやや多～多発した病害虫
 - (1)水 稲：ばか苗病、紋枯病、イネミギワバエ
 - (2)小 麦：赤さび病（秋まき小麦）、ムギキモグリバエ（春まき小麦）
 - (3)大 豆：マメシンクイガ、食葉性鱗翅目幼虫
 - (4)小 豆：食葉性鱗翅目幼虫
 - (5)ばれいしょ：黒あし病
 - (6)てんさい：ヨトウガ（第1回、第2回）
 - (7)にんじん：黒葉枯病
 - (8)だいこん：軟腐病
 - (9)はくさい：軟腐病
 - (10)りんご：ハダニ類
- 2) 平成26年度に特に注意を要する病害虫
 - (1)秋まき小麦の赤さび病
 - (2)秋まき小麦のなまぐさ黒穂病
 - (3)春まき小麦のムギキモグリバエ
 - (4)たまねぎおよびねぎのネギハモグリバエ
 - (5)各種作物のヨトウガ

3) 新たに発生を認めた病害虫

(1)水稲のイネドロオウムシ (薬剤抵抗性個体群の出現)

Oulema oryzae

(2)とうもろこしの炭疽病 (新発生)

Colletotrichum graminicola

(3)かんしょのつる割病 (新発生)

Fusarium oxysporum f.sp. *batatas*

(4)だいおうのコガタルリハムシ (新寄主)

Gastrophysa atrocyanea

(5)だいおうのギシギシアブラムシ (新寄主)

Aphis rumicis

(6)ながいものモモアカアブラムシ、ワタアブラムシ(新寄主)

Myzus persicae、*Aphis gossypii*

(7)かぶの腐敗病(新称)

Pseudomonas marginalis pv. *marginalis*

(8)こまつなの白斑病(新称)

Pseudocercospora capsellae

(9)ブロッコリーのヒメダイコンバエ(新寄主)

Delia planipalpis

(10)レタスの株枯病 (新発生)

Phoma exigua

(11)レタスのネギアザミウマ(新寄主)

Thrips tabaci

(12)たまねぎのネギハモグリバエ(新症状)

Liriomyza chinensis

(13)リーキの腐敗病(新発生)

Pectobacterium carotovorum subsp. *carotovorum*

(14)すいかのカブラヤガ(新症状)

Agrotis segetum

(15)かぼちやの果実斑点細菌病 (新発生)

Pseudomonas syringae pv. *syringae*

(16)かぼちやおよびメロンのヒメサビスジヨトウ (新寄主)

Athetis stellata

(17)ふきのフキヒメクキモグリバエ (新称)

Phytomyza sp.

(18)トルコギキョウの褐色根腐病 (新発生)

Subplenodomus drobnjacensis

(19)デルフィニウムの茎腐萎凋病(新発生)

Fusarium oxysporum

(20)われもこうのべと病 (新称)

Peronospora sparsa

(21)りんごのツマグロアオカスミカメ (新寄主)

Apolygus spinolae

(22)なしのニホンナシハモグリダニ (仮称) (新発生)

Eriophys sp.

(23)アロニアの黒斑病 (新称)

Alternaria sp.

(24)ブルーベリーのミズキカタカイガラムシ(新寄主)

Parthenolecanium corni

(25)緑肥用えんばくのいもち病 (新称)

Pyricularia sp.

7. 成果の活用策

1) 成果の活用面と留意点

ここに記載した病害虫について、特に今後の発生動向に注意する。

2) 残された問題とその対応

(1)簡易な調査方法とモニタリング手法の改善

(2)新たに確認された病害虫の発生動向把握と対応策の検討

(3)継続課題により対応

8. 研究成果の発表等

1) 日本植物病理学会において口頭発表 (新発生病害虫7、15、18、20、25)

2) 北日本病害虫研究発表会において口頭発表 (新発生病害虫8、19、23)

3) 北海道十勝地方のナガイモにおけるヤマノイモえそモザイクウイルスの感染時期およびこれに関与するアブラムシの寄生消長について. 北日本病害虫研究会報 61(2010)